



カブトエビは、どうやって飼えばいいの

田んぼで、カブトエビか、その卵を探してくる

カブトエビは、田んぼの用水路の入り口近くなどで、オタマジャクシに似た泳ぎ方をしています。網ですくって、つかまえ、田んぼの土もいっしょに、もって帰りましょう。

田んぼに水がないときは、カブトエビがいた底の土をもってきます。土をガーゼのような目の細かい網に入れ、水中でゆすると、網の中に黄茶色の直径0.5ミリメートルぐらいの卵が残ります。この卵を10日以上乾燥させます。水に入れたままの卵は、ふ化しません。

カブトエビを卵から飼う

カブトエビは、水温が20前後なら、2～3日でふ化しますが、水温が30をこすとふ化しにくくなります。また、カブトエビの卵は、水につけても、20パーセントぐらいしかふ化しません。ふ化しなかった卵を乾燥させた後、水につけると、やはり、20パーセントぐらいがふ化します。同じことをくり返せば、数がふえていきます。カブトエビの卵は、まわりが変化しても生き残れるように、一度に全部ふ化しないのです。ふ化したカブトエビの幼生は、だっ皮をくり返し、5日めぐらいに親と同じようなこうらもち、2週間後ぐらいから、卵を産みます。全部の

カブトエビが卵を産み、オスはいません。

土と、くみ置きをした水道水、水草を入れてた水そうを用意すれば、簡単に飼うことができます。えさは、どろの中の小さな生き物や、水草、水そうのかべに生えるも、ゆでたソーめん、などです。（監修・安部 義孝）

